

【調査サマリー】建設業界人が思う「進まぬデジタル化の実態」は「施工・専門工事」「施工管理」で 58.4%

調査実施概要

調査期間：2023年2月15日～2月22日	回答数：1,000名
調査対象者：全国の建設業界従事者	調査方法：インターネット調査(ゼネラルリサーチ株式会社)

【目次】

【前回調査結果の再掲】※建設業界従事者 1,000 人の「建設業界イメージ調査」 1

- 『建設業界の深刻課題』 1
- 『建設業界の課題とその解決方法』 2

調査①『デジタル化による生産性向上、業務効率化』※複数回答 2

- 進んでいると思う業務プロセス 2
- 遅れていると思う業務プロセス 2
- 【業種別】「施工・専門工事」「施工管理」のデジタル化が遅れていると感じる業種別の傾向 3

調査②『デジタル化による生産性向上、業務効率化が進まない理由』※複数回答 4

- 【業種別】デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」(複数回答) 5

【結果詳細】

<結果総評>

●前回調査結果から、建設業界従事者が思う建設業界で最も深刻な課題は、1位「人材不足」(56.5%)、2位「高齢化による技術継承」(43.6%)が上がり、この2項目が課題として顕在化した。

【建設業界従事者が思う建設業界の深刻な課題】※前回調査結果

- 1位：人材不足 (56.5%)
- 2位：高齢化による技術継承 (43.6%)
- 3位：円安などによる建材・人件費の高騰 (30.8%)

●前回調査結果から、建設業界の課題解決として建設業界従事者が期待するデジタル技術に「建設ロボット」や「測量ドローン」「VR・AR・MR」が上がっているが、現場での導入は進んでいない実態も明らかに。

●「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」には、「施工・専門工事」(35.3%)、「施工管理」(23.1%)がトップ3にランクイン(複数回答)。このことから、生産性向上、業務効率化の鍵は「施工・専門工事」「施工管理」にあると推測できる。

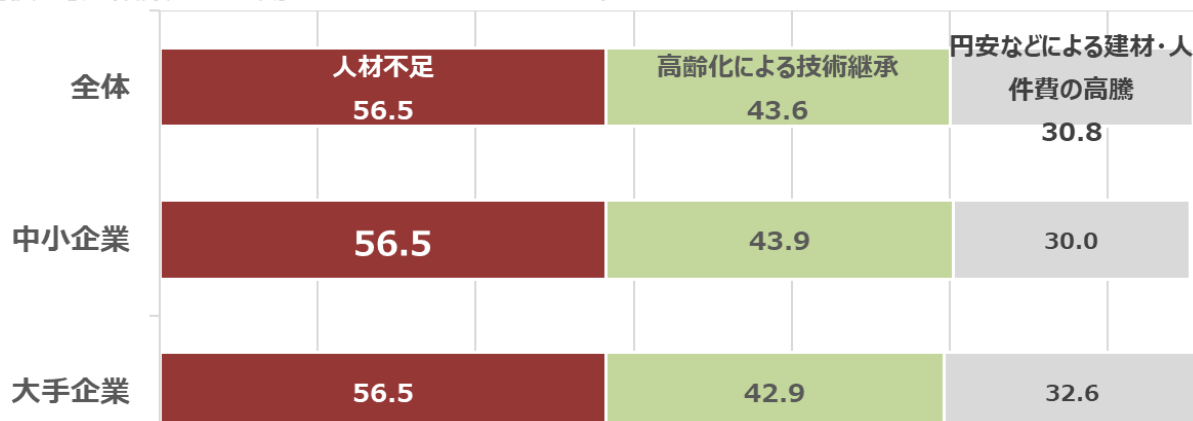
●デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」のトップ5から、今後の推進には予算確保や導入の煩雑さ、今までのやり方にとられない「柔軟な発想や業界従事者の意識変革」が鍵になるものと思料される。

【前回調査結果の再掲】※建設業界従事者 1,000 人の「建設業界イメージ調査」

●『建設業界の深刻課題』

建設業界全体、事業規模のいずれでも1~3位は同様の結果が得られたことから、「人材不足」「高齢化による技術継承」「円安などによる建材・人件費の高騰」が業界内の深刻な課題であるとの共通認識が伺える。

【事業規模別】建設業界の深刻課題TOP3 ※複数回答、単位：%



● 『建設業界の課題とその解決方法』

建設業界従事者が思う最大の課題に対する解決方法として期待するものと、現実に導入が進んでいるかの現状の上位 3 つをそれぞれ尋ねたところ、結果は次表の通りとなった。

それぞれの結果数値は高いとは言えず、現実的な導入には遅れを感じていると推測される。

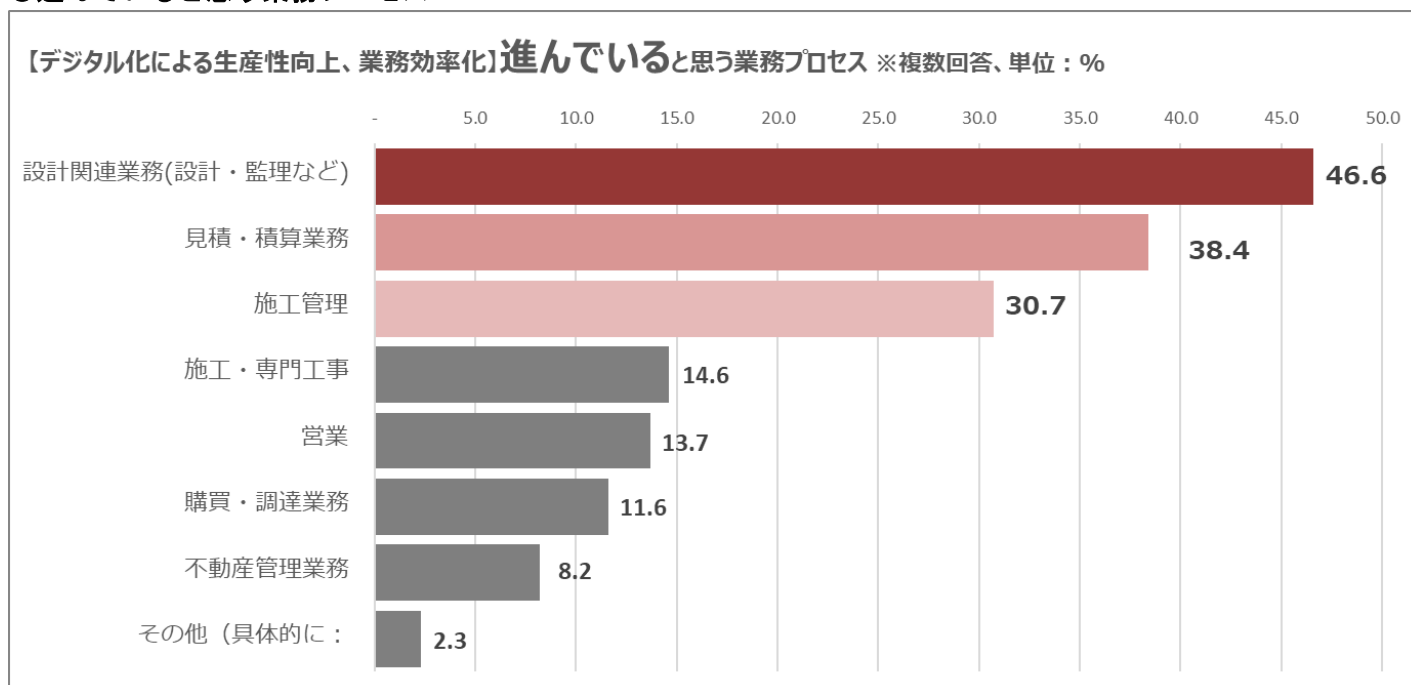
	業界課題を解決すると期待するデジタル技術	導入が進んでいると思うデジタル技術
1 位	建設ロボット (37.7%)	建設ロボット (20.1%)
2 位	測量ドローン (21.1%)	工事管理システム (18.7%)
3 位	VR・AR・MR (18.5%)	VR・AR・MR (14.5%)

調査① 『デジタル化による生産性向上、業務効率化』 ※複数回答

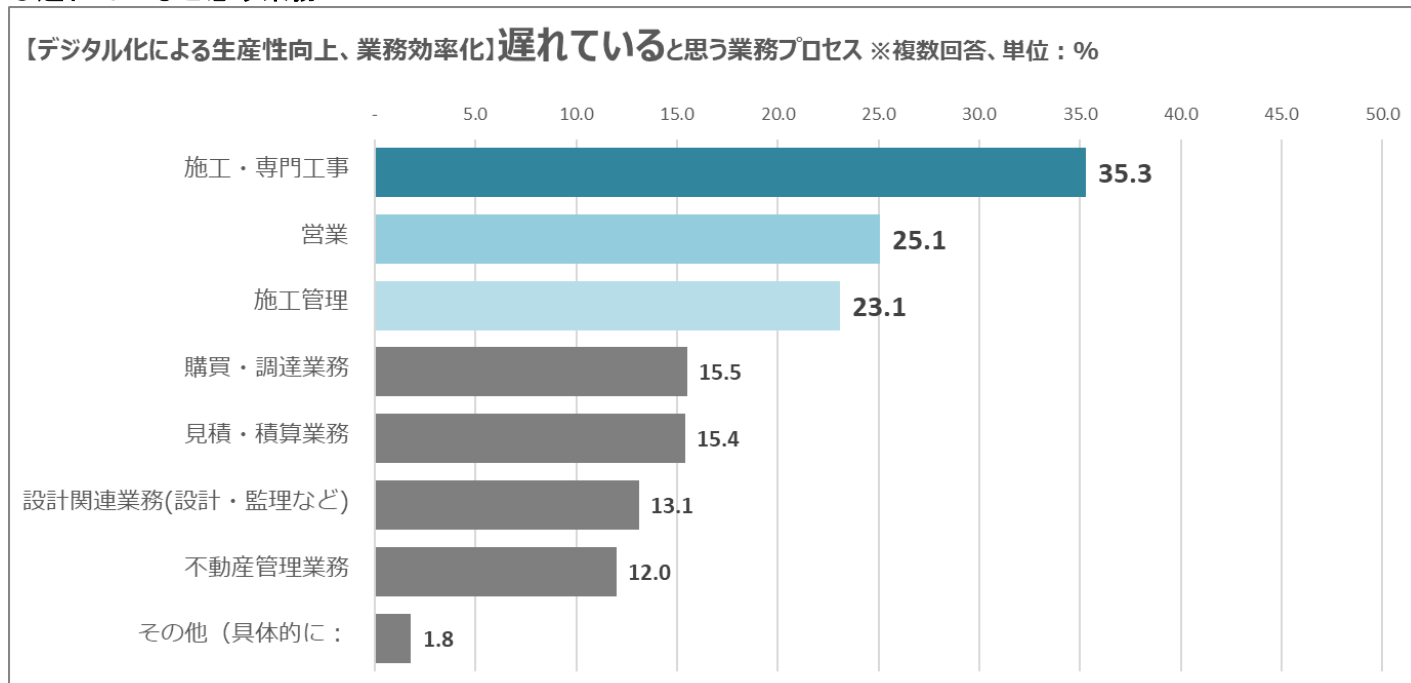
「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」の 1 位「施工・専門工事」、3 位「施工管理」が、生産性向上、業務効率化の鍵になりうると考えられる。

なお、施工管理については、デジタル化による生産性向上と業務効率化が「進んでいる」でも 3 位に入っていることから「遅れている」「進んでいる」は二極化している可能性も考えられる。

● 進んでいると思う業務プロセス

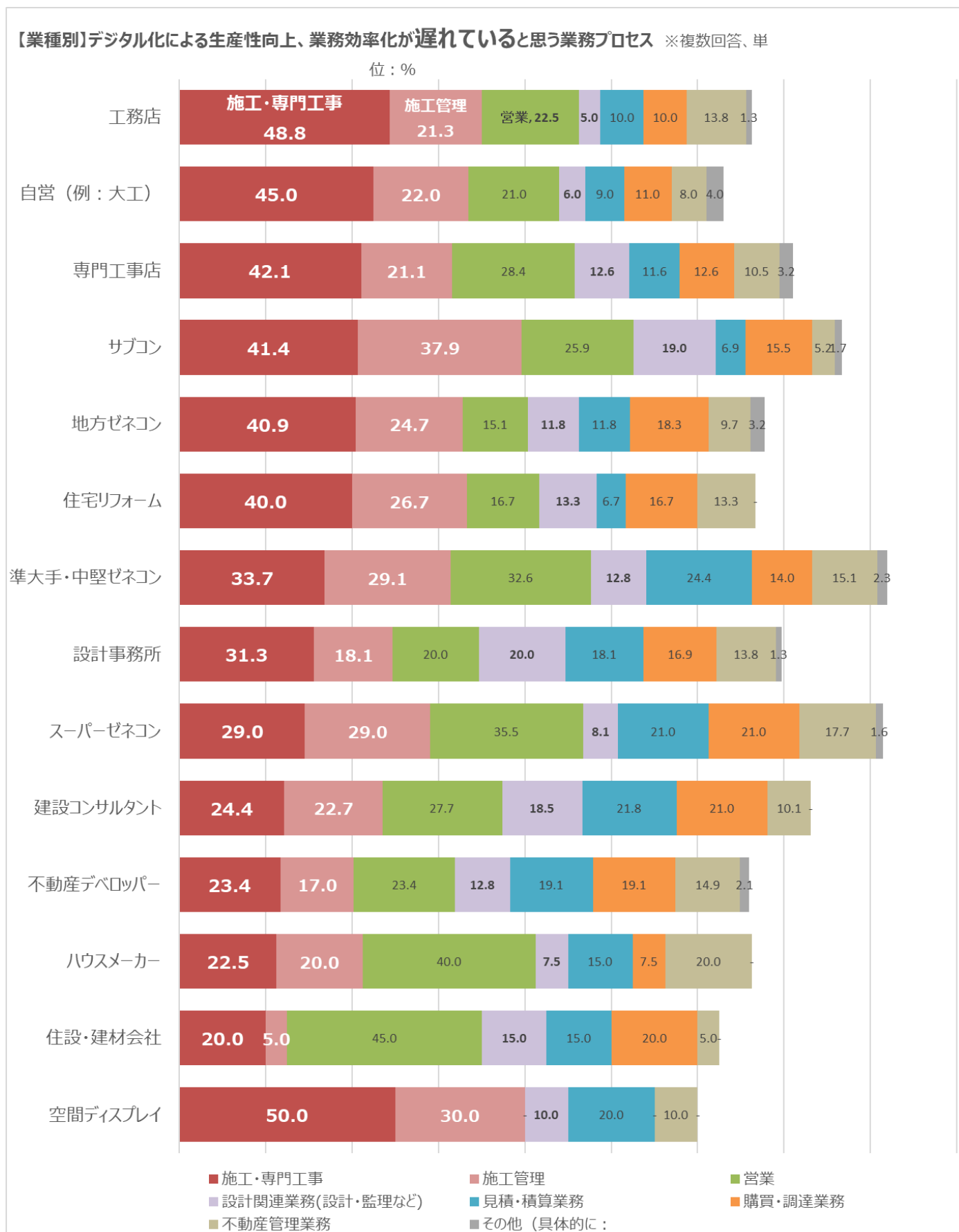


● 遅れていると思う業務プロセス



●【業種別】「施工・専門工事」「施工管理」のデジタル化が遅れていると感じる業種別の傾向

「施工・専門工事」については、現場に近い業種ほどデジタル化の遅れを感じている傾向が強い。

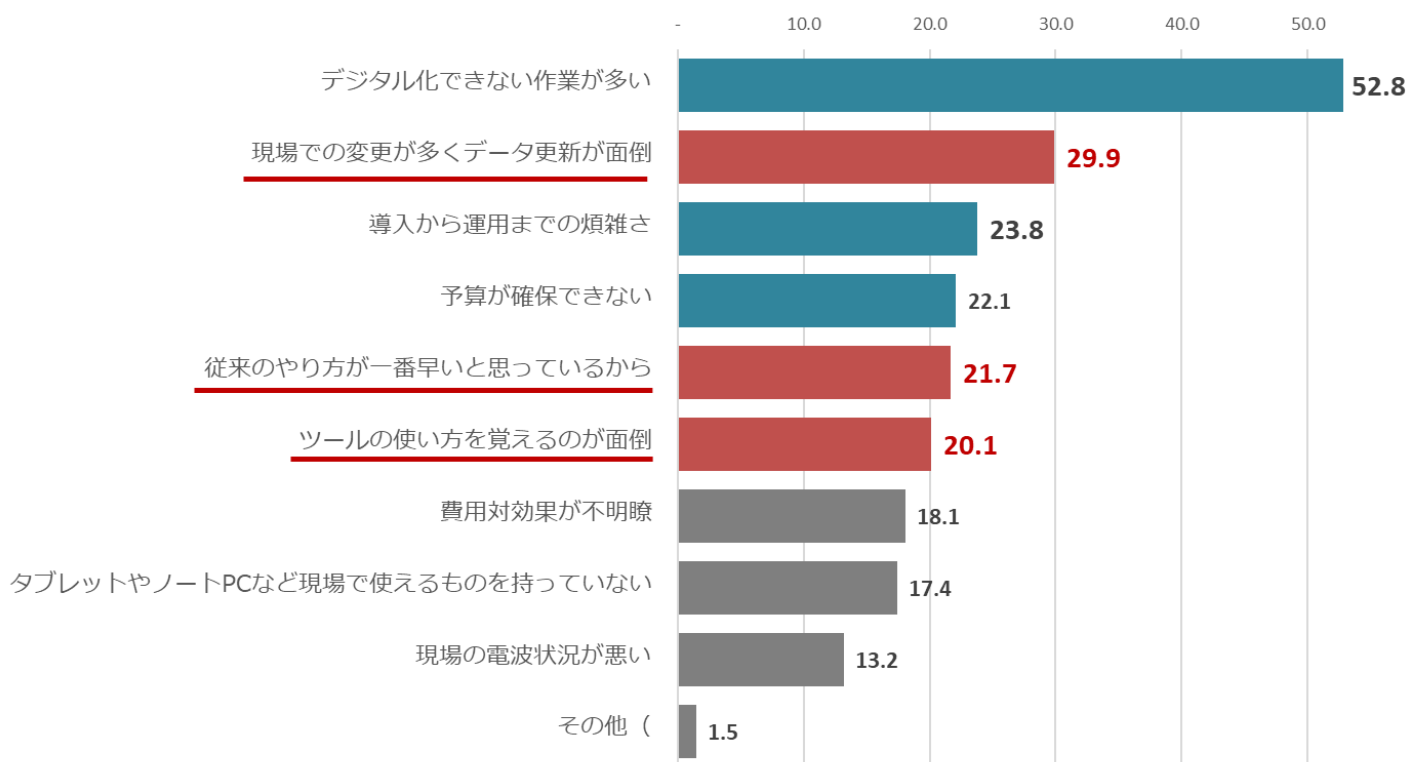


※空間ディスプレイとは、店舗や展示会ブース、オフィスなど、幅広い範囲で内装や展示に関するデザインを行う企業のこと

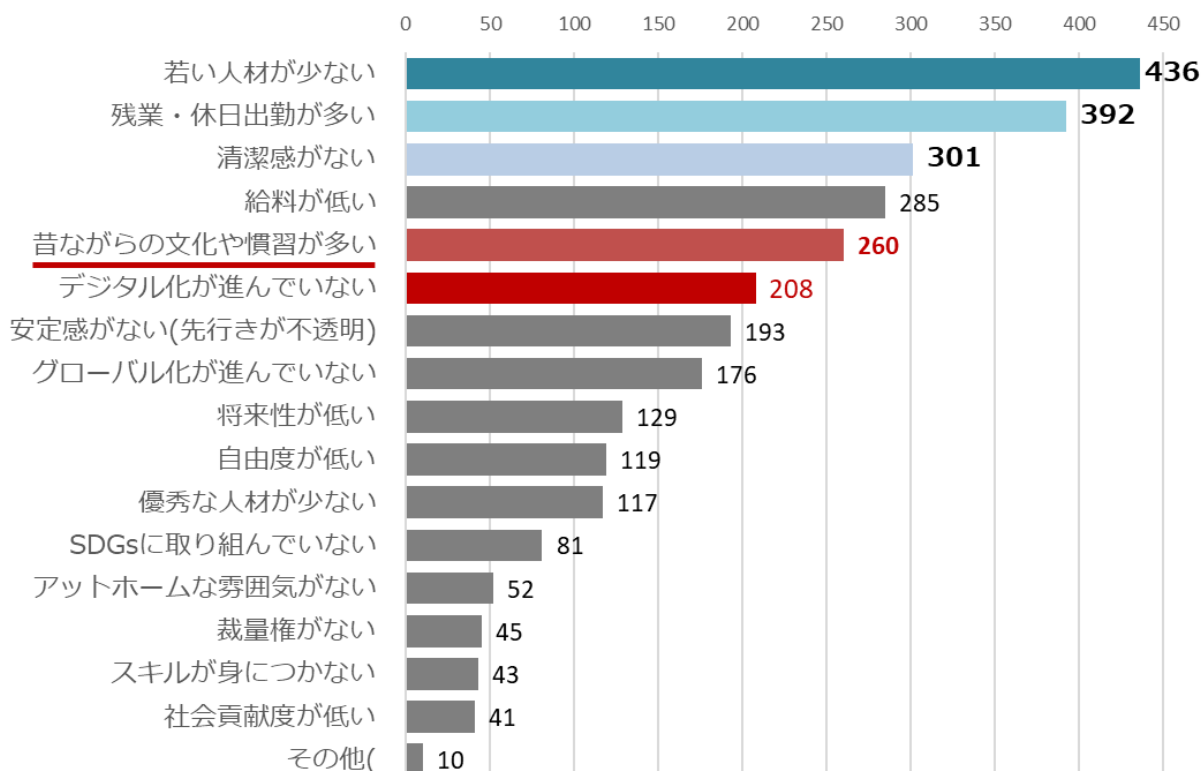
調査②『デジタル化による生産性向上、業務効率化が進まない理由』※複数回答

2 位「現場での変更が多くデータ更新が面倒 (29.9%)」、5 位「従来のやり方が一番早いと思っている (21.7%)」と圏外 6 位「ツールの使い方を覚えるのが面倒」については、「建設業界従事者の業界イメージ」調査のマイナスイメージ 5 位に「昔ながらの文化 (20.1%) や慣習が多い」が上がっていたことも併せて考慮すると、建設業界従事者の一部には変化を望まない層もあるのではないかと推測される。

【デジタル化による生産性向上、業務効率化】**進まない理由** ※複数回答、単位：%



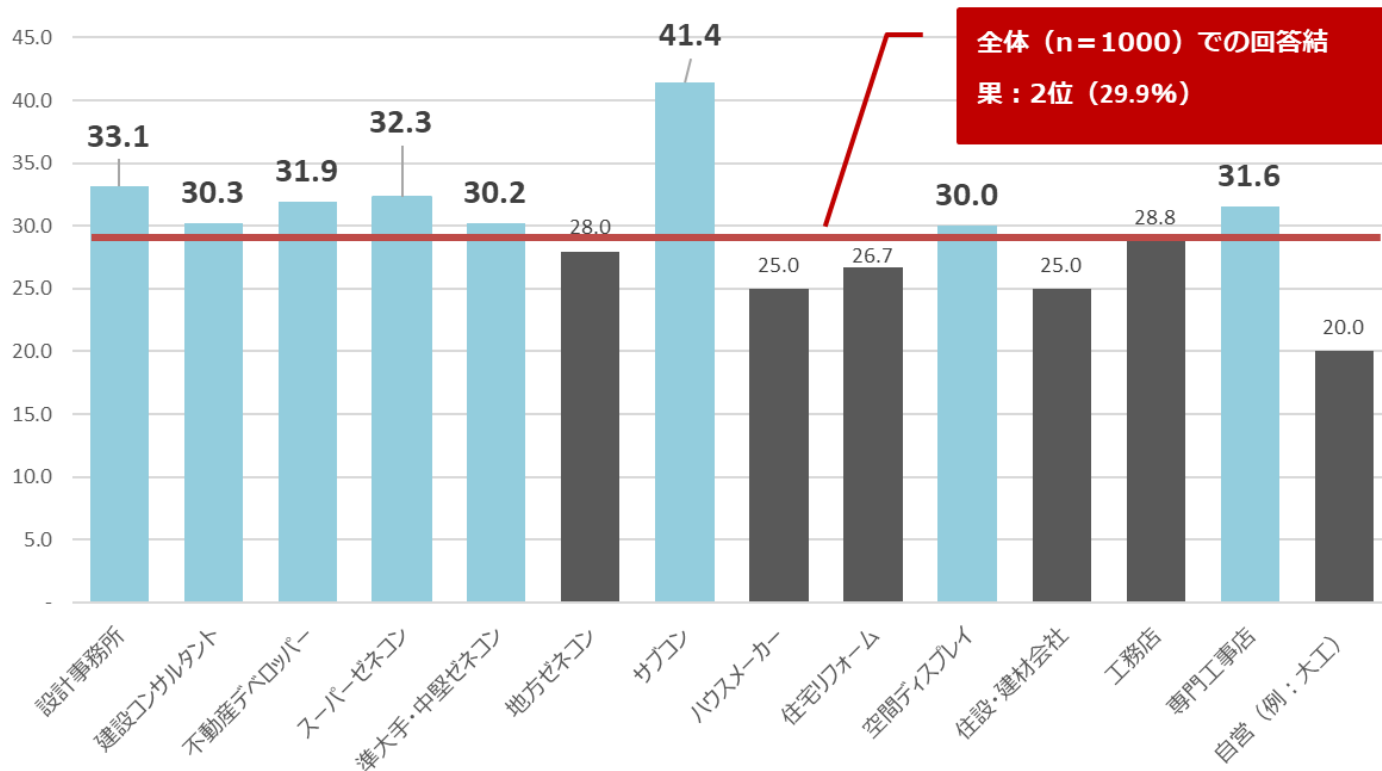
【建設業界従事者】建設業界のマイナスイメージ ※複数回答、単位：名



●【業種別】デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」(複数回答)

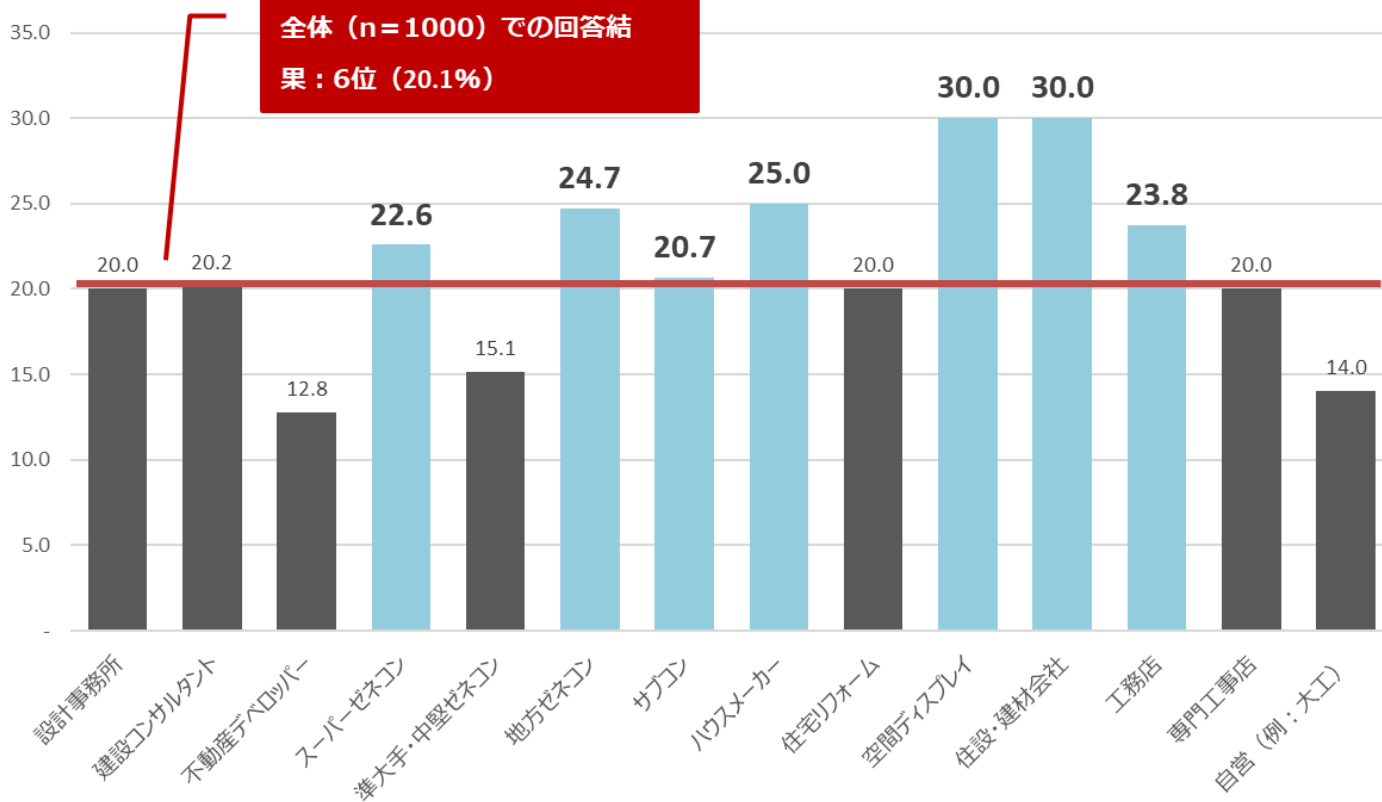
全体 2 位「現場での変更が多くデータ更新が面倒 (29.9%)」、3 位「ツールを覚えるのが面倒 (20.1%)」、5 位「従来のやり方が一番早いと思っているから (21.7%)」を業種別にみると、建設ロボットの開発や、生産性向上の手段の一つとして国が進める BIM の業界内旗振り役ともいえるゼネコンが上位に名を連ねている点に注目したい。

現場での変更が多くデータ更新が面倒 ※複数回答、単位：%

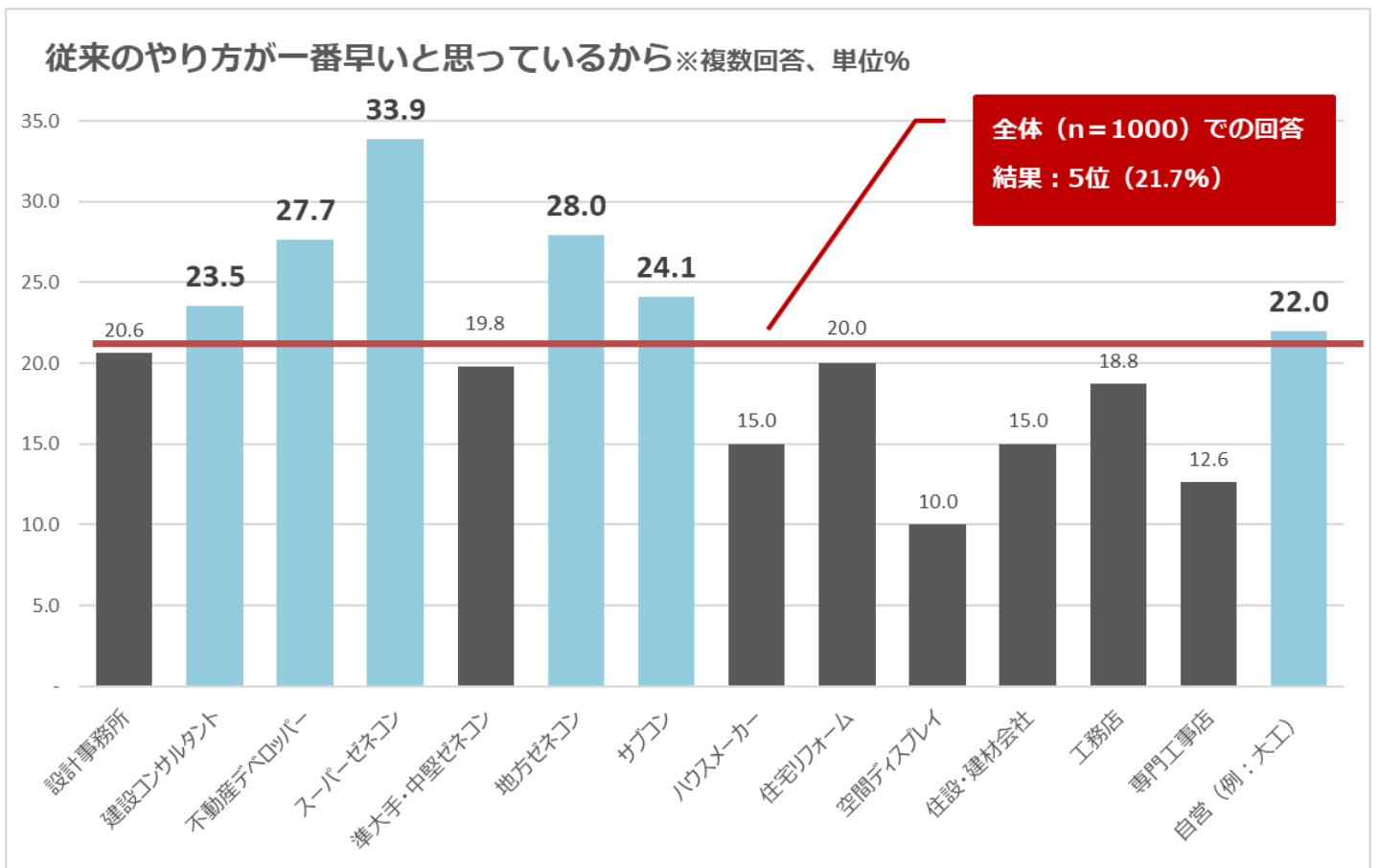


全体 (n=1000) での回答結果：2位 (29.9%)

ツールの使い方を覚えるのが面倒 ※複数回答、単位：%



全体 (n=1000) での回答結果：6位 (20.1%)



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社
ブランドコミュニケーション課 (担当: 齋藤)
E-Mail: nhrpreso@nohara-inc.co.jp